

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来予測が困難な後期近代社会を生き抜くために、グローバルかつローカルな視点を持ち、新たな価値を創造する力と社会を生き抜く人間力を養い、社会をリードする人材を輩出する学校をめざす。

1. 育てたい生徒の資質は次の4つ

- ①流動化する社会の中でも「世の為、人の為」という原点になる志をもち、己を鍛える生徒

(志を持ち、己を鍛える)
- ②幅広い教養（リベラル・アーツ）を身につけ、知性を磨き、新たな価値を創造する生徒

(知性を磨き、価値を創造する)
- ③己を知り、社会を知り、世界を知り、人生を描くことが出来る生徒

(己を知り、人生を描く)
- ④人と繋がり、地域・社会と繋がり、世界と繋がる、心身ともに健全で規律ある生徒

(人・社会・世界と繋がる)

2. めざすべき教職員集団の4つの観点

- ①常に「生徒のために」の原点を忘れず、新たな教育課題に果敢に挑戦する教職員集団

(果敢に挑戦する)
- ②互いに成長しあい、学びあい、切磋琢磨する教職員集団

(切磋琢磨する)
- ③同僚性に富み、互いに支えあい、強みを活かし、弱みを克服する教職員集団

(同僚性に富む)
- ④互いの役割分担を認め、相互理解するチーム力のある教職員集団

(チーム力がある)

2 中期的目標

1. 思考力・判断力・表現力を養い主体的に学ぶ力を育成する。

(1) 進路実現に結びつく質の高い授業を生徒に提供する。

ア 授業アンケートのデータおよび自由記述にみられる生徒の生の声に真摯に向き合い、授業見学、公開授業、研究授業を、教科を中心に組織的に取り組む
※学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」(H28年度肯定感65.7%)「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」(同48.6%)を毎年3ポイントずつ引き上げ、H31年度には、各項目を10ポイント近く向上させる。

(2) 高大接続改革に向け、アクティブ・ラーニング型授業（以下、ALまたはAL型授業とする）を促進する。

ア 知識構成型ジグソー法をはじめ、現在開発されているAL型授業を積極的に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改革に取り組む。
※学校教育自己診断の「教え方を工夫している先生が多い」の項目を「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」と変更し、H29年度の肯定感から毎年3ポイントずつ引き上げる。

(3) 自ら課題を見つけ探究心をもって主体的に学ぶ力を育てる。

ア 学校内外の授業以外の学びの場に積極的に参加し、学ぶことの興味関心をそだて、自己のキャリア形成と関連付けた主体的な学びを促進する。
※学校教育自己診断に「授業以外にも興味関心を持たせる学びの場がある」(仮)を新設し、H29年度の肯定感から毎年3ポイントずつ引き上げる。

イ 朝の小テストを改善し、読解力の育成の一助とする。
※学校教育自己診断の「朝の小テスト」は、学力や学習意欲の向上に役立っている」を「朝の小テスト」は学力の向上や興味関心の向上に役立っている」に変更し、H29年度の肯定感から毎年3ポイントずつ引き上げる。

ウ 様々な学びの場を提供し、自学自習の力を養う。具体的には、①講習・補習の充実②AL型学習ができるラーニングコモンズ（以下LCとする）の開設③教育産業と連携したVOD型学習の推進及び進学講習の充実を図る。
※学校教育自己診断の「補習や補講が生徒のニーズに沿って行われている」「自習室・LCの開放は、学習時間の確保に役立っている」とVOD学習登録者を対象とした「VOD学習は、学力の向上に役立っている」をH29年度の肯定感から毎年3ポイントずつ引き上げる。

2. 高い志を持ち進路実現をするためのキャリア教育を充実する。

(1) 系統的なキャリア教育の充実を通じて、進路実現の意識の醸成を行う。

ア 総合的な学習の時間（FROM NOW）や進路別分野別説明会・大学見学・卒業生との対話集会等の充実を図る。
※学校教育自己診断の「ホームルームや『総合的な学習の時間=From Now』などで進路や生き方について考える機会がある」(H28肯定感77%)を3年間で80%以上にする。

イ 個々の生徒の学習状況・進路志望状況を把握し、進路実現への道筋を明確にするキャリアカウンセリングを充実する。
※学校教育自己診断の「スタディーサポート、実力テストや模試は、学習に取り組む態度を改善するために役立っている」(H28年度肯定感55.5%)を毎年3ポイントずつ引き上げる。

(2) 二つのコース間の切磋琢磨を促進し、進路実績の向上をめざす

ア 二つのコースの充実及びコース間の切磋琢磨を促進する。特にスタンダードコースのキャリア教育を促進に、スタンダードコースの活性化を促進する。
※学校教育自己診断の「本校のコース（アドバンスト・スタンダード両コース）は、学習環境の充実や進路実現に役立っている」(H28肯定感69.8%)を毎年3ポイントずつ引き上げる。特に、同項目の両コース間の差を3年間で5ポイント以内にする。

イ 国公立大学及び難関私立大学の進学実績の向上を図る。
※H30年度卒国公立合格者20人、関関同立現役合格者実人数100人以上をめざす。(H28年度卒 現役実人数：国公立10名、関関同立77名)

3. 人と繋がり、社会と繋がり、世界と繋がる力の育成をめざす。

(1) 自主活動を推進発展させる

ア 行事・クラブ活動などの自主活動を促進し、コミュニケーション能力、組織力、マネジメント力を養う。
※学校教育自己診断の自主活動関連の項目を毎年3ポイントずつ引き上げる。

(2) グローバル資質の育成を推進する。

ア 海外語学研修、留学生の受け入れ、トビタテJAPANの活用などを促進し、グローバル資質の育成を行う。
※学校教育自己診断の「国際理解教育に力を入れている」(H28肯定感68.2%)を毎年3ポイントずつ引き上げる。

(3) 地域連携強化によるローカル資質の育成の推進

ア 保護者、中学生徒、中学校教員への学校説明会の充実をはかり、H29年度入試の志願倍率を今後も維持する。

イ 司馬遼太郎館との連携をはじめ、中河地地区の大学、公共施設、民間団体などとの連携を図る。

府立布施高等学校

※学校教育自己診断に「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」（仮）を新設し、Ｈ２９年度肯定感より毎年３ポイントずつ引き上げる。
ウ 小中学校、地域、地元自治体と連携した防災活動を充実させる。
※学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」（Ｈ２８肯定感６０．８％）を毎年３ポイントずつ引き上げる。
（４）自己を厳しく律する力と自尊心を育成する。
ア 挨拶指導・遅刻指導を促進する
※年間遅刻回数を２０００以下にする（Ｈ２８年度２７７４件）
イ 教育相談委員会の活性化、個別生徒支援の充実を図る。
※学校教育自己診断における「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」（Ｈ２８肯定感５９．５％）を毎年３ポイントずつ引き上げる。
４. 教職員集団「チーム布施高校」の育成
（１）教育課題に果敢に取り組む教職員集団の育成
ア 新たな教育課題にチャレンジし、教職員間が切磋琢磨しながら、同僚性に富んだチームワークのある教職員集団の育成を図る。
※学校教育自己診断「本校の学習目標に沿って教育活動が行われている」（Ｈ２８年度肯定感６８．６％）を毎年３ポイントずつ引き上げる。
イ 教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。
※学校教育自己診断の関連項目を毎年３ポイントずつ引き上げる。
ウ 校内研修の開催、校外研修への参加の促進、研究授業の実施を促進し、高大接続改革など新たな教育課題に対応できる教職員集団の育成を図る。
※学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」（Ｈ２８年度肯定感６０．６％）を毎年３ポイントずつ引き上げる。
エ 運営委員会の活性化、ミドルリーダーの育成、若手の力量向上を図る。
※学校教育自己診断に「運営委員会は、十分に機能している」（仮）を設け、Ｈ２９年度の肯定感から毎年３ポイントずつ引き上げる。また、同様に人材育成の項目を新設し、Ｈ２９年度の肯定感から毎年３ポイントずつ引き上げる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
学校経営の目標を学校教育自己診断の結果を前年度と比較して原則 3 ポイント以上向上させることを目標にした。その結果、32 項目中 13 項目で目標以上に向上した。一方、肯定感が 3 ポイント以上減少した項目は無かった。よって、次のように整理できる。 第一に、「本校に入学して人間的に成長したと思う。(6.0)」「本校は、社会に役立つ有意義な人材を育成しようとしている。(3.0)」のように、本校が伝統校としてのミッションを果たそうとしていることに生徒が肯定感を持っていること。 第二に、生徒の自主活動に力を要れ、自立心の向上に力を入れていることに肯定感を生徒が肯定感を高く持っていること。 第三に、教育相談活動、国際理解、防災教育、朝の小テストなど、今年の課題であった点について生徒が肯定感を持っていること この 3 点については、今年の学校経営計画を教職員全体が、十分に理解し、1 年間の教育活動を行った成果であろう。ただし、「学力のつく授業が多い。」「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく。」は、肯定感が増加傾向であるが、目標の 3 ポイント増までは至らなかった点は、次年度最優先事項となる。 さらに、「主体的・対話的で深い学び」などの新しい教育課題について、肯定感が約 50%であったのは、1 年間の成果としては大きい。ただ、次年度新入生より「大学入学共通テスト」が始まるので、今後「思考力・判断力・表現力等」を養成する教育はさらに推進しなければならない。	＜第 1 回学校協議会＞6 月 1 5 日実施 第 1 回学校協議会では、平成 29 年度学校経営の中心課題であった A L 型授業の推進、探究的活動の一つであるクエストエデュケーションについての議論が中心に行われた。委員長の近畿大学久教授によると、「近畿大学の学生と布施高校の生徒の課題がオーバーラップすることが多い。クエストと A L を中心に学校のプログラムを発展させて欲しい」というアドバイスを頂いた。 ＜第 2 回学校協議会＞1 1 月 1 3 日実施 第 2 回学校協議会では、①授業アンケートの結果②クエストエデュケーションの進捗状況③推薦入試指導について話題になった。①については、久教授から近畿大学での教授からリフレクションシートの提案があり、1 月の職員会議で採用することを決めた。②については、近畿大学の学生が、街づくりに政策提言をしている例を久委員長から紹介があり、クエストの意義が紹介され、「このプログラムが、将来のビジョンと結びつけることが大事」というアドバイスを頂いた。③については、近畿大学の推薦入試の例の紹介があり、「如何に面接官に響く内容を持つか」がポイントであることのアドバイスを受けた。 ＜第 3 回学校協議会＞ 第 3 回学校協議会では、①アクティブ・ラーニング②遅刻の減少③ 7 1 期生の進路結果（センター試験を中心に）④校則について が話題になった。①については、今後の「深い学び」につなげるための様々なアドバイスを頂いた。②については、今年の成果として大きく評価を頂いた。③については、リスニング対策や私立大学がセンター利用が増加すること、新学習指導要領の動向などが話題になった。④については、規則して守らせなければならないこととマナーとして生徒を指導していくことを分割するほうが良いのではないかというアドバイスをいただき、具体的に近畿大学の学生を対象としたマナーブックをご紹介いただいた。

府立布施高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 思考力・判断力・表現力を養い主体的に学ぶ力を育成する。	(1) 質の高い授業の提供 ア 授業アンケートの活用及び研究授業などの活性化	ア ・年2回の授業アンケートに自由記述を加え、生徒の声に真摯に向き合う。 ・授業見学、公開授業、研究授業を、教科を中心に組織的に取り組	ア 学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」(H28年度肯定感65.7%)「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」(同48.6%)をそれぞれの肯定感を3ポイント上昇	ア 学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」(肯定感65.7%(h28)⇒66.3%)「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」(肯定感48.6%(h28)⇒50.9%(h29))上昇。3ポイントの上昇には至らず。(△)
	(2) AL型授業の促進 ア AL型授業を取りいれ、授業改革に取り組む (3) 探究心をもって主体的に学ぶ力の育成 ア キャリア形成と関連付けた主体的な学びの促進	ア 校内外の研修に参加・実施し、AL型授業の研究授業を実施する。 ア 学校内外の授業以外の学びの場に積極的に参加し、学ぶことの興味関心をそだて、自己のキャリア形成と関連付けた主体的な学びを促進する。	ア 学校教育自己診断「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」(新設)の肯定感を50%にする。 ア 学校教育自己診断「授業以外にも興味関心を持たせる学びの場がある」(新設)の肯定感を50%以上にする。	ア 学校教育自己診断「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」の肯定感が59.1%(◎) ア 学校教育自己診断「授業以外にも興味関心を持たせる学びの場がある」(新設)の肯定感が、49.9%(○)
	イ 「朝の小テスト」の改善実施	イ 朝の小テストに改善し、読解力の育成の一助とする。	イ 学校教育自己診断を「「朝の小テストは学力の向上や興味関心の向上に役立っている」に変更し、H29年度の肯定感を60%以上にする。	イ 学校教育自己診断を「「朝の小テストは学力の向上や興味関心の向上に役立っている」の肯定感が前年度より5.4ポイント上昇したが肯定感は57.5に留まる(△)
	ウ 自学自習の力を養う	ウ ①講習・補習の充実 ②ラーニングコモンズの開設 ③教育産業と連携したVOD型学習の推進④進学講習の充実	ウ それぞれの学校教育自己診断(中期目標参照)の肯定感を70%以上にする。	ウ 学校教育自己診断「補習や補講が生徒のニーズに沿って行われている」(肯定感68.9%(h28)⇒69.2%(h29))「自習室・LCの開放は、学習時間の確保に役立っている」に回答した利用者の肯定感が76.3%(◎)
2. 高い志を持ち進路実現をするためのキャリア教育を充実する。	(1) 進路実現の意識の醸成 ア FN等の充実	ア ・FNや進路別分野別説明会・大学見学・卒業生との対話集会等の充実を図る。 ・クエストエデュケーションを新たに2年生に導入し、キャリア形成の充実を図る。	ア ・学校教育自己診断の「ホームルームや『FN』などで進路や生き方について考える機会がある」(H28肯定感77%)を78%以上にする ・クエストエデュケーションの肯定感、60%以上。	ア ・学校教育自己診断の「ホームルームや『FN』などで進路や生き方について考える機会がある」(肯定感77%(h28)⇒74.1%(h29))(△) ・クエストエデュケーションの肯定感が77.8%(◎)
	イ キャリアカウンセリングの充実	イ キャリアカウンセリングシートを活用し、個々の生徒の学習状況・進路志望状況を把握し、進路実現への道筋を明確にする	イ 学校教育自己診断の「スタディーサポート、実力テストや模試は、学習に取り組む態度を改善するために役立っている」(H28年度肯定感55.5%)の3ポイント以上。	イ 学校教育自己診断の「スタディーサポート、実力テストや模試は、学習に取り組む態度を改善するために役立っている」(肯定感55.5%(h28)⇒57.7%(h29))(△)
	(2) 進学実績の向上。 ア 二つのコース間の切磋琢磨の促進	ア 二つのコースのキャリア教育、特にスタンダードコースのキャリア教育に重点を置く。	ア 学校教育自己診断の「本校のコース(アドバンスト・スタンダード両コース)は、学習環境の充実や進路実現に役立っている」(H28肯定感69.8%)を70%以上に、また、両コースの肯定感の差を2ポイント縮める。	ア 学校教育自己診断の「本校のコース(アドバンスト・スタンダード両コース)は、学習環境の充実や進路実現に役立っている」(肯定感69.8%(h28)⇒69.3%(h29))(△)
	イ 進学実績の向上	イ 国公立大学及び難関私立大学の進学実績の向上を図る。	イ 国公立合格者10人以上、関関同立現役合格者数80人以上をめざす。(H28年度卒 現役実人数：国公立10名、関関同立77名)	イ 国公立合格者15人、関関同立現役合格者数71人(H29年度末)(○)

府立布施高等学校

3. 人と繋がり、社会と繋がり、世界と繋がる力の育成をめざす。	（１）自主活動を推進発展させる ア 行事・クラブ活動などの自主活動を促進	ア 既存のシステムをより活性化させて、自主活動を促進し、コミュニケーション能力、組織力、マネジメント力を養う。	ア 学校教育自己診断の自主活動関連の項目を３ポイント引き上げる。	ア 学校教育自己診断「ホームルーム活動は活発で、クラス全体で積極的に取り組んでいる。」（肯定感 67.5 (h28) ⇒72.1% (h29))、「創造祭・体育祭の学校行事に生徒が主体的に取り組めるように工夫されている。」（肯定感 77.8 (h28) ⇒80.2% (h29))「本校は、部活動や自治会活動などの自主的な力を伸ばしていく教育活動に力を入れている。」（肯定感 69.7 (h28) ⇒73.7% (h29))（◎）
	（２）グローバル資質の育成を推進する。 ア グローバル資質の育成 （３）ローカル資質の育成の推進 ア 学校説明会の充実 イ 地域連携強化 ウ 防災教育の推進 （４）自己を厳しく律する力と自尊心の育成 ア 挨拶指導・遅刻指導 イ 教育相談委員会の活性化	ア 海外語学研修、留学生の受け入れ、トビタテ J A P A N の活用などを促進し、グローバル資質の育成を行う。 ア 保護者、中学生徒、中学校教員への学校説明会の充実・拡大をはかる。 イ 司馬遼太郎館との連携をはじめ、中河地地区の大学、公共施設、民間団体などとの連携を図る。 ウ 小中学校、地域、地元自治体と連携した防災活動を充実させる。 ア 挨拶指導・遅刻指導を促進する イ 教育相談委員会の活性化、個別生徒支援の充実、教育相談研修の充実を図る。	ア 学校教育自己診断の「国際理解教育に力を入れている」(H 2 8 肯定感 6 8 . 2 %)を３ポイント引き上げる。 ア H 2 9 年度入試の志願倍率を維持する。 イ 学校教育自己診断に「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」(仮)を新設し、H 2 9 年度肯定感を 60%以上にする。 ウ 学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」(H 2 8 肯定感 6 0 . 8 %)を３ポイント引き上げる。 ア 年間遅刻回数を 2 5 0 0 以下にする (H 2 8 年度 2 7 7 4 件) イ 学校教育自己診断における「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」(H 2 8 肯定感 5 9 . 5 %)を３ポイント引き上げる。	ア 学校教育自己診断「本校は、国際理解教育に力を入れている」(肯定感 68.2%(h28)⇒74.8%(h29))（◎） ア 最終倍率が 1 . 5 3 倍となり、昨年度大きく上回る。（◎） イ 該当項目を未調査。参考として「本校は、社会に役立つ有意義な人材を育成しようとしている。」（肯定感 63.2% (h28) ⇒66.2% (h29))（○） ウ 学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」（肯定感 60.8%(h28) ⇒68.7% (h29))（◎） ア ２月末で 2089 回の遅刻で前年度 25%減。欠席は 27%減（◎） イ 学校教育自己診断「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」（肯定感 59.5% (h28) ⇒64.5% (h29))（◎）
4. 教職員集団「チーム布施高校」の育成	（１）教育課題に果敢に取り組む教職員集団の育成 ア チームワークのある教職員集団の育成。 イ 教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。 ウ 新たな教育課題に対応できる教職員集団の育成 エ 運営委員会の活性化、ミドルリーダーの育成、若手の力量向上	ア 教職員の意識改革を行い、学校経営計画の実現に向けた組織運営を推進する。 イ 学校経営計画の 1 及び 2 を実行することにより、教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。 ウ 校内研修の開催、校外研修への参加の促進、研究授業の実施を促進する。 エ 運営委員会の議論の活性化、OJT の推進、若手教員の勉強会を推進し、教職員の力量向上を図る。	ア 学校教育自己診断「本校の学習目標に沿って教育活動が行われている」(H 2 8 年度肯定感 6 8 . 6 %)を３ポイント引き上げる。 イ 学校教育自己診断の関連項目を３ポイント引き上げる。 ウ 学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」(H 2 8 年度肯定感 6 0 . 6 %)を３ポイント引き上げる。 エ 「運営委員会は、十分に機能している」(仮)を設け、H 2 9 年度の肯定感から 3 ポイント引き上げる。 人材育成の項目を新設し、H 2 9 年度の肯定感から 3 ポイント引き上げる。	ア 調査項目を学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている。」に変更した。参考値（肯定感 37.2%(h29)（△） イ 学校教育自己診断「学力のつく授業が多い。」（肯定感 65.7% (h28) ⇒66.3%）「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」（肯定感 48.6% (h28) ⇒50.9% (h29)) 学校教育自己診断「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」の肯定感が 59.1%。最初の 2 項目が 3 ポイント未満の上昇であるが、今後求められる思考力・判断力・表現力が約 60%の肯定感である。（○） ウ 学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」（肯定感 60.8% (h28) ⇒53.5% (h29))。ただし、アクティブ・ラーニング型授業の実践者が、42.9%に上昇。研修に対する評価は下がっているが、今年度研修を行ったアクティブ・ラーニング研修の成果は、目標を大きく上回っている。（○） エ 該当項目を未調査。参考として「校長の学校運営に関するシート」でリーダーシップ 3.74、経営方針の周知及び発信 3.78、諸課題の解決 3.74、情報収集・分析・活用 3.72、危機管理体制の徹底 3.65 と高評価を得ている。（○）